

鈴木委員

最初に、グランドデザインについて一言お聞きするというか、言っておかなければいけないだろうなと思って、所管の方、どなたがいらっしゃるかわからないけども、この別添資料の 1 と資料 2 というのは、どちらが元なのかということ聞きたい。

産業労働局企画調整担当課長

別添資料 1 につきましてはプロジェクト編でございまして、県政の主要施策を位置付けたものでございます。委員お話ししの別添資料 2 につきましては主要施策編と申しまして、課題とする主要施策を一連にまとめたものでございます。

鈴木委員

違う。どちらが元なのかと聞いているの。

産業労働局企画調整担当課長

主要施策編の方に県で取り扱っている事業を網羅的に取り扱っておりますので、元は主要施策編の方です。その中からプロジェクトとして重点プロジェクトの具体的な取組を位置付けております。

鈴木委員

はっきり、要は別添資料 1 が元なのか、2 が元なのかということを知りたい。長く答えなくてよいから、どちらなのか。

産業労働局企画調整担当課長

2の方が元でございます。

鈴木委員

今これを見ていて、この別添資料の例えば 1 がある。産業労働局は、例えば経済のエンジンという柱Ⅱがある。この中で再生可能エネルギー等の導入加速化とか、A、B、Cと書いてあるが、これは何をするのかということが、実はこのかながわグランドデザインの別添 2 に書かれていると私は理解した。ところが、これを見ていると、再生可能エネルギー等の導入加速化というこの 5 というのは、確かにこの後ろの、先ほどの局長のお話のあった、このプロジェクトと主要施策との関連という中の 5 というものを見ると、101 から 707 までですよと書かれている。

要するに別添資料 1 の同じ柱のところの一番後ろを見たら、5 のところが 101 から 707 まで書かれていますよと。そういう見方をしなさいって、先ほど局長のお話があった。ところが、実際にあなた方が取り組むのは、この A、B、C を取り組むんですよというならば、本来のかながわグランドデザインの中に書かれているこの一つ一つのナンバーが振られているものというのは、ここになければおかしいと思う。言ってる意味が分かるか。私は、あなた方がやりたいのは A というのをやりたいんですよ、そうしたら、そのためにはどういうプロジェクトがあるんですか、ということはここに書かれていなければおかしい。

ところが、こちらを見ると、何かただただこのページの何ページです、何ページですと書いてあるけれども、こちら見てみると、ではそれと何がつながりがあるか。こういうつくりを平然として、どうぞグランドデザインですなん

て持ってくることで自分が、私はいかかなものなのかと思って、まず質問したんです。どうですか。

産業労働局企画調整担当課長

プロジェクト編に位置付けられておりますこの具体の取組と、それから主要施策の関係が一覧でちょっと見てよく分からないというのは御指摘のとおりだと思います。今回、プロジェクト編におきましては、新しくそのプロジェクトと主要施策の関係というページを設けまして、そこでどの主要施策がどのプロジェクトを位置付けているかということは一応分かるようにはなりましたがけれども、御指摘のとおり、その具体的な取組がどの主要施策に当たるのかというのは、ちょっと見には全く分からないということではございますので、政策局と協議させていただきまして、もう少し記載を含めさせていただけるような方向で考えたいと思います。

鈴木委員

私は何でこのような質問を前回からやっているのかというと、あなた方が目指しているもののゴールが見えないから。全部この中にひとくくりでいろいろ書いてあるけれども、これだけの税金を投入してこれやります、あれやりますって書いてあるけれども、では、できなかつたら、それはマルなのかバツかということに対して、社会だったら全部それに対してある意味でペナルティーが課されるわけ。ところがどうもこのプロジェクトと見てみると、とてもアバウトなことが次から次に書かれていて、これでは約700本も800本もあるこのプロジェクトを見ても、そのゴールというのがなかなか見えない。だから、私はそういうようなものを何かわざとしているような気がして、失礼な言い方だったら許していただきたいのですけれども、余計、かえって分からなくなったのではないかな。確かに言葉とかデザインなどというのは大幅に改善していただいた。けれども、これについて県民の方々に一つ一つ県が何をするのかということを知っていただくためには、かえって難しくなったのではないかなと思いますので、これはもう課長に一言言ってもしょうがないので、政策局とまた話しさせていただきながら、対応方をお願いしたいと思います。

一つ、先ほどからのお話をしていた中で、いみじくも私が前回、箱根の問題については行け行けどんどんでいいとかと、あなた方はもうどんどん安全です、これは大丈夫です、というやり取りをしたけれども、いざとなったら、昨日の防災警察の委員会でも、警戒レベル4とか5になったときにはどうするのだと、避難計画までつくるようにというような話になる。それは置いておいても、このような時にこそ、逆に、私はこの箱根の方々のためにも、県としてこういう事態としてのしっかりとした決意というのを示すべきだと思うんですよ。それは、先ほど観光課長と自民党の質問の中で、何をやりますかといったら、芦ノ湖まつりを一生懸命支援しますみたいなこと言っているけれども、ふざけた話だと私は逆に思いますよ。やはり広域自治体としてこれだけのお金を持ってやっていたら、やはりこの箱根をどのような形でやるのかということについて、しっかりと支援する。先ほどから多額のお金が出ているこのロボット等についても、活用というのは私はしっかりとしていくべきではないかという論点から、何点か、提案型でもってお話をさせていただきます。

一つは、ロボットをいろいろここに書かれていらっしやいます。頂いた報告

資料の 20、21 にこれやりました、あれやりましたと一杯書いてある。私もこの中のロボットの大半は知っています。だけど、こういうことをやったとしても県民の方々は実感が無い。要するにこんなすごいことを皆さん方がやっているのだけれども、その一つの良い例が 21 ページにある。この前、私もお邪魔してきた、神奈川リハビリテーションセンターで、脊髄を損傷された方で、基本的には全然動けない、そういう方が歩行支援ロボット HAL を使うことによって歩けるといふ喜びがある。もうすでに数人の方が歩いていらっしやるんです。すごいことだと私は思った。だけど、出ているのは失礼ですけども、新聞の中では 1 紙だけでした。それを見て私は現場を見なきゃいけないと思ってお邪魔してきた。

この中で、先ほどのエネルギーの話にしてもそうなのだけれども、一生懸命やっただけ、だけどそれが要するに県民の中にどのような形で伝わっていくのかという、見えない施策に私はいら立っているんです。その中で先日、パワーアシストスーツという、人間を運ぶ、ある意味で 2 分の 1 ぐらいの重量で運ぶことのできるスーツというようなものについて、自主的にもうちょっと公で使ってみたらどうかという提案をさせていただきました。何なのかというと、秦野の方の山岳救助隊の方々とお話ししたところ、10 人の体格のよい方たちが、御婦人お一人を下ろすために大変な労力を使っていたら、これはもし万が一、このパワーアシストスーツ等を使うことによって、もし軽減ができるものであるならばということで、実は私はそのときに約束をさせていただいて、隊員の方々に、一度また使っていただく機会をつくりたいというふうに言ったところ、隊員の方々は逆に知らなくて驚いていらして、そういう中で、私一つは公として、また公の場で使うことによって、大変なアピール度というのがあるのではないのか、そういう観点というのをこれからしっかりあなた方がつくっていかなければならないのではないかと、まず提案したいと思うのですが、これはいかがですか。

産業振興課長

今、御指摘のあったような過酷な環境下でのロボットの活用というのは非常に重要だと認識しております。今、委員のお話にもありましたように、県警の山岳救助隊、近々ロボットの紹介に参りたいと考えておりますけれども、今後も各自治体や公共機関に呼び掛けまして、こうしたロボットを直接アピールするという機会を増やしていきまして、ロボットの有用性を実感してもらうことで、各機関が早期にロボットを導入していくような働き掛けをしていきたいと考えております。

鈴木委員

課長、是非ともそういう観点からよろしくお願ひしたい。今、例えば警察行政とかいろいろなところでも人が行けなくて困っていることがいっぱいあるわけ。現実には、例えば防衛庁などでも全然人が入れないところにちょうど手投げ弾ぐらいの、丸いボールのセンサー付きのものを投げ入れることによって、テロ対策なんかにも使っていたらいいわけ。そうすると、人が行って命の危険にさらされるところに対して、そういうものはもう現実に行っているんだということを、あなた方はしっかりアピールしていかないと、これやりました、あれやりましたとかいっぱい書いていて、どちらかというと、あの富士ソフト

でもうやっているような、DMMドットコムでしたか、たけしさんがCMに出てやっているような流れで、ああいうところからももっと逆に進んでいるところがある。では、県としてこんなに何億円もの金をかけて一体何をやる必要があるんだという中で、私は公という力、活用をまずは提案をさせていただいたというのが第1点でございます。

第2点は、適応ビジネスというのが今世界的に見直されている。ICPPの報告では、温暖化対策等によっても、実は北極の氷が解けている。ところが北極の氷が解けているのだったら、逆に商船三井などは、あそこを逆に通って、氷が解けているから、要するに、実際のタンカー等の動きみたいなものの中で、80日間を40日間でもって運ぶというようなことが、実はもうかなりの勢いでもって手がけています。起こっている。それ以外にも例えばネスレなども、逆に高温に適したコーヒーの栽培とか始めたり。

そういう中で私が2番目に提案したいのは、これだけのロボットというものを皆さん方がやっていらして、箱根が危ないという言い方をさせてよいのか。確かに危ないのですよ、人命は大事だし、それはやらなければいけないけれども、皆さん方は来てくださとおっしゃっている。そうであるならば、私はそのところにロボットの力を何らかの形で集結して、さがみロボット特区でただ検証しているだけではなくて、現実で皆さん方の中でこういうことができましたということを、今こそ私は県が実証を示すときではないかと思えますけれども、これについてはどうですか。

産業振興課長

今お話のあった適応ビジネス、私なりに解釈しますと、自然現象をビジネスチャンスに生かすというふうに受け止めましたけれども、非常に魅力的なものだと思っております。また民間活力も活用していくというふうに受け止めました。

ロボットの活用につきましても、箱根という今の状況下で、地元の意向も踏まえるのはもちろんですけれども、民間企業の力を活用した取組ができないか、そして御協力いただけるような企業が、広く門戸を開いてロボットの購入活用について御協力できるような企業があれば、そういったことも検討してまいりたいと考えます。

鈴木委員

その中で、先日、有明でやっているものづくりワールド行ってきました。3Dプリンターなどはやはり大変な進歩です、私がびっくりしたのも、人間が完璧に入れるものを3Dプリンターでロボット型でもってできてしまっている。それを見てまいりました。その中で、やはり民間の力はすごいものです。半端じゃない。県というブランドはすごいブランドなわけですね。そうすると、例えば箱根等でこういう問題があったときに、こういう問題を箱根が抱えている、そうしたら、これに対して名乗りを上げる企業はいませんかと言ったら、私は絶対来ると思うんです。実は二つぐらいのところにお邪魔してきました。一つのところはソフトを開発していらっしゃる会社でした。二つ目はセンサー。この方たちはもう完璧に違う。工科大学等ではもう自主的にセンサーを使ってのいろいろな実験が行われているようです。私はその中で、県として、皆さん方の産業労働局の窓口として、例えばそういうところで箱根を救うプロジェク

トみたいなものは、例えばホームページのどこかのページの中で出て、そこに自主的に御自分の力でオーダーをして、そしてその中でもってどういうことができるのかというようなことを募集するようなページみたいなものを、私は立ち上げるべきではないかというふうに思うんです。

その中で、少なくとも私が見てきた民間の方々、そのものづくりワールドの中でも、神奈川県の中の6社ぐらい出ていらっしゃいました。私がお話ししたときには、何人かは、できることはいっぱいありますよとお話しされていた。だけど、そういう機会が何かなかなかない中を一番簡単にできるものというのは、やはり窓口をつくって、そういう支援というものをして、それが、広域行政としての責任者としての大きな力になるのではないかと、また、箱根等へのエールになるのではないかという思いがしました。突発的な意見だけど、この点どうでしょうか。

産業振興課長

実際、この前のドローンの調査で私もその日現場におりまして、協力していただいた企業の方にお話を直接伺うと、やはり箱根のこの状況を見て、もういても立ってもいられなくなったということでした。今、御指摘のありました民間活力、本当に大いに私どもとしても期待したいところですし、そういったものを募集するといった、あるいは民間の方から是非協力したいと申し出ていただけるような機会というのは、検討してまいりたいと考えております。

鈴木委員

その点だけ一つ提案をしたかった。

もう一つは、観光課の方でございますけれども、やはり今お話しありました、芦ノ湖まつりだけだと、やっぱり寂しいだろうと。きちんとそれはある意味で観光をやっている流れとしては、みんなが危ないから来ないのではなくて、これだけ安全ですという情報発信は現地だけでは駄目だと思った。何を思ったのかというと、かながわ屋で売られているいろいろなものを見せてもらいました。出川哲郎さんの実家のノリがあるとは私知らなくて、あのようなものを売ったら結構買う人いるかなと思ったりしました。先日かながわ屋の前を通ったときに、多分、東京からいらっしゃった方だと思われませんが、おっ、こんなところに神奈川の物産を売っているところがあるんだ、寄木細工ってこの中にあるかね、という話を3人の方がしていたらしい。

私は現地の中でもって頑張れとおっしゃるのも大事だけれども、もう一度、例えば、この370万都市である横浜とか川崎の中で、例えば県内の修学旅行の生徒さんが少なくなっているという現状は現実にあるわけですよ。そうなっていったときに、逆に私はこの横浜とか川崎の中で一つにはやはり物産というようなものや、また箱根をどのような形で支援していけるのかという一つイベントや、また今、ある意味で何かを習ったりすることにすごく皆さん興味を持っていらっしゃる。5月の末にはこの日本大通りでやっていただいて、寄木細工等が結構な盛況だったようですけれども、そういうのを私は逆に県として、横浜とか川崎とかがって、こういう行っていただきゃならないところに、逆にそういう観光としてのスポットや物産もひっくるめて、照準を置くのも、一つの考えなのではないかというふうに思ったので、少し御意見を聞かせてください。

観光企画課長

先ほど芦ノ湖のお祭りのお話をさせていただきましたけれども、やはり県産品とか箱根の寄木細工、そういった製品の販売促進、これも非常に重要だというふうに考えております。県では今年からオンラインショッピングということも、今、始めておまして、そういったところも通じながら県産品、特に今回、こういう箱根の状況がございますので、箱根の製品の販売にも力を入れてまいりたいと考えておりますし、今後、かながわ屋の設置場所の検討につきましても、シルクセンターが耐震改修工事が始まるという中で、その期間の立地等についても検討していくことになってございますので、今、委員からお話のあった意見を踏まえて検討してまいりたいと考えております。

鈴木委員

そんなことまで言わなくてもよいのだけど、私が言ったのはそういう意味ではなくて、例えば、横浜のダイヤモンド地下街の入り口のところの左側でもって、よく北海道だとか、いろいろな物産展をやっているの。買わないのだけど、みんな見ていくわけ。あんまり買わないけれど、北海道展はそごうだとかいろいろなところをやっている。けれど、あそこにおいて、みんな手に取って見ているわけですよ。長野の物産とか何とかって。それを見たときに、すごい効果だなど。現実にはあそこというのはある意味で、24時間とは言わないけれども、大方の時間、人の流れもすごくあって、そこにしろという意味ではないですが、そういうことをひっくるめて、やはり横浜とか川崎というところで、そういう一つの観光としてのもの、物産とかというようなもの、観光と言ってよいか私は分からないけれども、そういうものも売っていくスペースやまたアイデア等も、広域の行政の主体者としては、こういうことも考えていくべきなのではないかという御提案なのです。

観光部長

今、委員からお話がありましたように、この前の5月、県議会の本会議に合わせまして箱根の物産をやらせていただきました、知事も法被を着て売りました。これもかなり盛況で終わりました。委員おっしゃったとおり、決して現地で売るだけが支援ではない、いろいろな形でいろいろな物産をいろいろな方面で展開するというのがやはり物産支援ということにつながってくると思いますので、今後、いろいろな時期を捉えてそういった部分を検討してまいりたいと思います。

鈴木委員

かながわ屋の話が出たけれども、かながわ屋というのは、そもそもあそこに来たというのはどういう理由からなのか。産貿センターに来たといういきさつについてはいかがですか。

観光部長

もともとかながわ屋をあそこのシルクセンターの1階に出展する理由ですが、県産品の販路拡大のために神奈川のアンテナショップをまずつくろうと、平成二十何年頃かに検討した際に、立地場所についていろいろ検討させていただきました。当然のことながら集客が見込まれる横浜駅とかその近辺とかいうところでいろいろ検討したところですが、なかなか横浜の方に出展する際には費用対効果とか、地代の問題とか、いろいろなところで折り合わず、最終的につく

ったときがちょうどみなとみらい線ができてくるといったタイミングもありまして、それに伴う集客効果を見込んでシルクセンターの1階に落ち着いたというのが現状でございます。

鈴木委員

今お話がありましたとおり、実際に赤レンガ等にも人が流れているでしょうから、売上げは少し下がっているのでしょうかけれども、やはり地震対策等の建物の建て替えということがあるのであれば、新たな候補地としてしっかり横浜駅付近にある程度、目立つところにしっかり出店するというのも大事だと思うので、その方向性一つまたお願い申し上げまして、私の質問を終わります。